

ひきこもり 不登校 支援の会 相談会

日時：毎月第1月曜日 18時30分～20時
(時間内の出入りは自由です)
場所：栃の実荘 交流スペース
(井口533-20)

対象者：ひきこもりや不登校状態の人、その家族、
支援の中で悩みや不安を抱える教育・医療
福祉関係者、その他関心のある方

参加費：100円(お茶代)

主催：ソーシャルケアワーカー集団
「しもつかれいど」

お問合せ：那須塩原市社会福祉協議会
地域支援係

TEL 0287-37-5122

発足の経緯

那須塩原市西那須野地区には市民・医療・福祉・教育など
に関心がある方や専門職が一堂に会して地域の福祉課題を話
し合う、いわゆる地域ケア会議「にしなすケアネット」が
あります。

2019年7月に開催された、にしなすケアネットでテーマに
なったのがひきこもり問題です。

会議後にこの地域では表面化していないこの問題が、
いずれ大きな課題になると考えた有志がひきこもりの
家族支援を重点にしてカフェ方式の集まりを企画しました。

その後、不登校もひきこもりと表裏一体である問題と
捉えて現在の「ひきこもり・不登校支援の会相談会」
として月1回のつどいを実施しています。



宇都宮にある

『子ども若者・ひきこもり総合相談センター
ポラリス☆とちぎ』と連携した会です。

本人やご家族が相談できる場、支援に悩みを持つ
関係機関の人たちが相談できる場です。

お茶やコーヒーを飲みながら話せる空間ですので
お気軽におこしく下さい！

LINE公式アカウントから
連絡や情報提供等しますので
ご登録ください！



LINE公式アカウント

私たちの活動の基本的な考え方

ひきこもり状態の当事者や不登校の児童生徒が

「問題」なのではありません。

認知症の症状を持つ人の行動が周囲にとって「問題」となっても、当事者には「問題」ではないことと同じように、ひきこもり・不登校を「問題」にしているのは周囲の人たちだけです。

むしろ、当事者も「問題」と捉えているのは少なくありませんが、それは周囲の「問題」を映しているだけではないでしょうか。

多くの場合、「相談」をしたい人は周囲の人です。

だから、私たちは家族と関係者支援をメインテーマとしています。それぞれの人が自分ながらに状態変化の糸口を見つけられるよう、働きかけていきたいと思っています。できれば、私たちはその中から社会の価値観を変容させるキッカケ作りができれば、とも思っています。ひきこもり・不登校当事者の状態は、社会が柔軟さを失っている現状を示していると思っていますからです。

自分がいなくなったら、
子どもはどうすれば...

相談を受けても、どこを頼っていいかわからない。

学校に行きたくないのに、
学校って行かなきゃいけないところなの？

- ・ 満40歳から満64歳までのひきこもりの出現率は1.45%で、推計数は61.3万人。
- ・ ひきこもり状態になってから7年以上経過した方が約5割を占め、長期に及んでいる傾向が認められる。
- ・ 専業主婦や家事手伝いのひきこもりも存在する。
- ・ ひきこもり状態になった年齢が全年齢層に大きな偏りがなく分布している。

—平成30年度に行った「生活状況に関する調査」/調査ポイントより

不登校の児童生徒数

全国

- ・ 小学生/53,350名
- ・ 中学生/127,922名
- 合計/181,272名
(前年比10.2%増)
- 栃木県/3,129名

全国

- ・ 高校生/50,100名 (前年比5.0%減)
- 栃木県/834名 (1,000名当たり15.9名)

—文部科学省2019年度児童生徒の問題行動等調査より